

DataBase Visualization Add-in Software

DBEAM[®]

拡張機能



株式会社 東京システム技研

はじめに

このたびは、DataBase Visualization Add-in Software DBEAMをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

本マニュアルは拡張機能について解説したものとなっておりますので、製本マニュアルまたはCD-ROM内のマニュアルと合わせてご覧ください。

皆様のお役に立つことを願っております。

最新情報等につきましては下記 URL に掲載しております。

URL : <http://www.tsl.co.jp>

本マニュアルに記載されている会社名及び製品名は、各社の商標又は登録商標です。

DBEAM は、(株)東京システム技研の商標です。

RepoAgent は(株)富士通北陸システムズの登録商標です。

- ・本書は、改善のため予告なく変更する場合があります。
- ・本書の欠陥により生じた全ての障害について、(株)東京システム技研は一切の責任を負いません。
- ・無断転載を禁じます。

目 次

1. 確認実行のファイル格納	4
1.1 動作モードの設定	4
1.2 ファイル出力画面	5
1.3 ファイル選択コモンダイアログボックス	6
1.4 項目間の区切り文字	7
1.5 文字データの区切り	7
1.6 NULL データの扱い	7
2. RepoAgent 連携マクロ関数	8
2.1 機能概要	8
2.2 RepoAgent 連携の実装方法	9
2.2.1 マクロの有効化	9
2.2.2 マクロの記述方法	10
2.2.3 マクロサンプル	10
2.2.4 セルの表示形式	10
2.3 API リファレンス	11
2.3.1 <i>DBMSETREPOENV</i> (RepoAgent 情報簡易設定)	11
2.3.2 <i>DBMSETREPODETAIL</i> (RepoAgent 情報詳細設定)	12
2.3.3 <i>DBMEXECUTEPR</i> T (データ連携 / 帳票印刷)	20
付録 1.RepoAgent 連携サンプル解説	21

1 . 確認実行のファイル格納

1. 確認実行のファイル格納

確認実行の動作モードが「抽出データをファイルに格納する」のとき、検索データを指定されたファイルへ出力します。

1.1 動作モードの設定

検索結果をファイルへ出力するには、動作モードを「抽出データをファイルに格納する」にします。

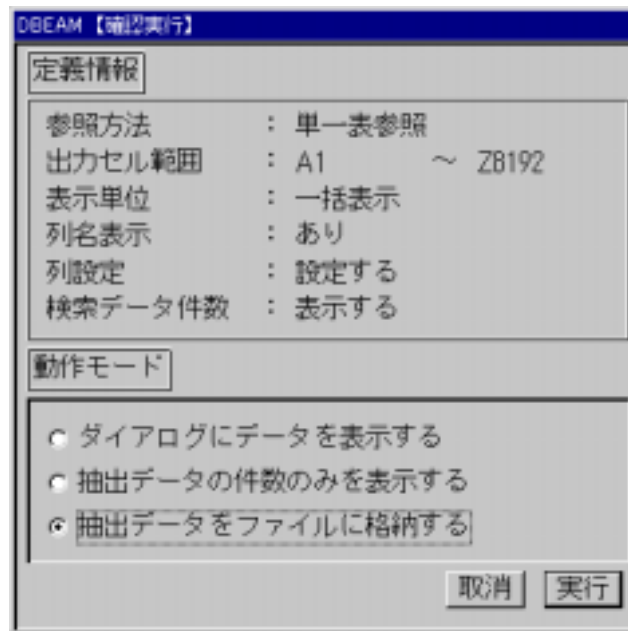


図 1.1 動作モードの選択

1.2 ファイル出力画面

1.2 ファイル出力画面

確認実行画面の「実行」ボタンを押すと、ファイル出力画面が表示されます。

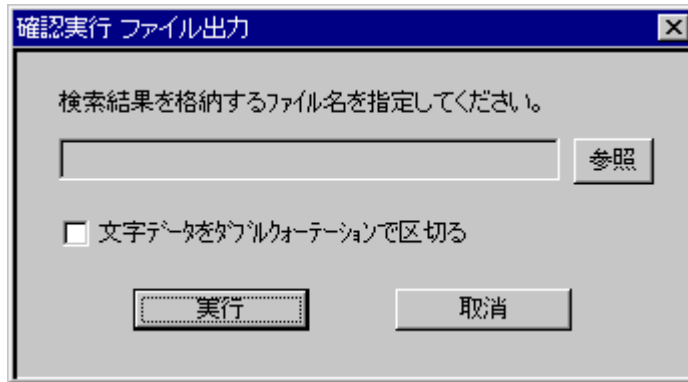


図 1.2 ファイル出力画面

ファイル名：フルパスで入力してください。ファイル名のみ入力した場合はカレントフォルダへ出力されます。

参照ボタン：コモンダイアログボックスが表示され、一覧からファイルを選択することができます。

チェックボックス：「文字データをダブルクォーテーションで区切る」チェックを付けると、ファイル形式に関係なく、文字型データの前をダブルクォーテーション（"）で区切ります。また、項目名を全てダブルクォーテーションで区切ります。

実行ボタン：ファイル名の入力を確定し、検索の開始画面が表示されます。但し、ファイル名が入力されていない場合はエラーとなります。

取消ボタン：確認実行を取消し、条件設定画面へ戻ります。

1.3 ファイル選択コマンドのイロゲボックス

1.3 ファイル選択コマンドダイアログボックス

既存のファイルを選択する画面です。

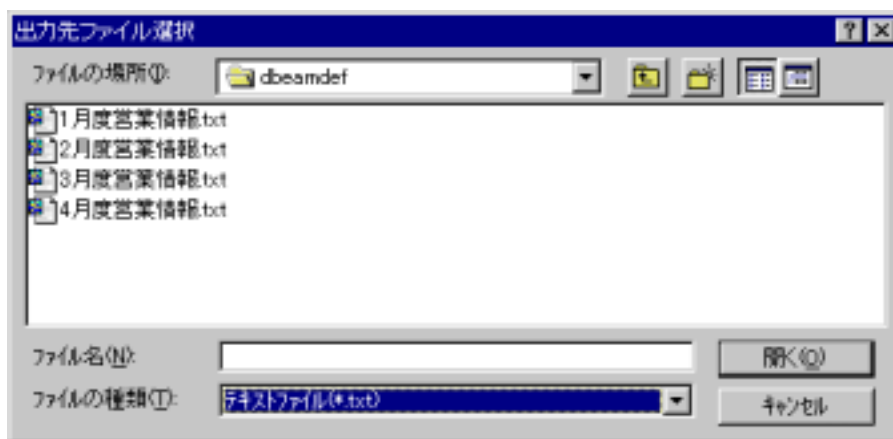


図 1.3 ファイル選択画面

- (1) ファイルの種類
ファイルの種類は以下の 3 種類です。
 - すべてのファイル(全ての拡張子)
 - テキストファイル(拡張子は txt)
 - CSV ファイル (拡張子は csv)
- (2) テキストファイル
ファイルの種類でテキストファイルを選択し、ファイル名の拡張子を省略した場合、自動的に拡張子(txt)が付加されます。
- (3) CSV ファイル
ファイルの種類で CSV ファイルを選択し、ファイル名の拡張子を省略した場合、自動的に拡張子(csv)が付加されます。
- (4) 初期フォルダのカスタマイズ
Windows フォルダ内の「DBEAM.INI」を編集することで、初期表示されるファイルディレクトリを設定することができます。
DBEAM.INI ファイルの「DBEAM OPTION」セクションの下に以下の 1 行を追加します。
DBMRUNDIR=C:¥DBEAM¥OUTFILE 任意のパスを指定可能

1.4 項目間の区切り文字

1.4 項目間の区切り文字

検索データをファイルへ出力した場合、ファイル形式によって項目間の区切り文字が異なります。

(1) テキスト形式（デフォルト）

コマンドダイアログボックスから全てのファイル及びテキストファイルで選択した場合は、項目間の区切り文字は**タブ**です。

(2) CSV 形式

ファイル名の拡張子を CSV とした場合は、項目間の区切り文字は**カンマ**固定です。

1.5 文字データの区切り

文字データの前後をダブルクォーテーションで区切るには、ファイル出力画面の「文字データをダブルクォーテーションで区切る」チェックを有効にします。

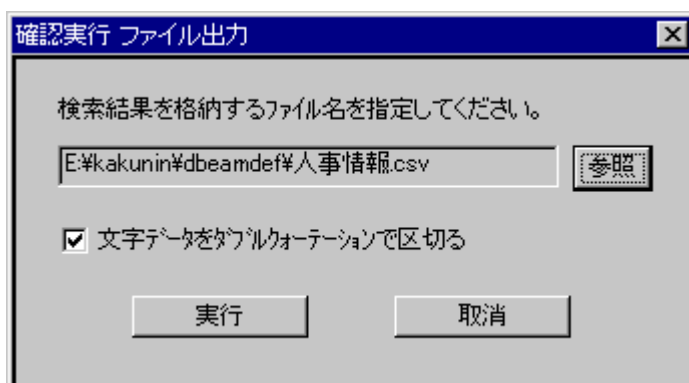


図 1.4 文字データの区切り

1.6 NULL データの扱い

デフォルトでは、検索データに NULL データが含まれていると、「(NULL)」という文字に置換えて出力します。文字列への置換えを行わずに出力する場合は、Windows フォルダ内の「DBEAM.INI」を編集します。DBEAM.INI ファイルの「DBEAM OPTION」セクションの下に以下の 1 行を追加します。

```
DBMNULLDATA=1
```

2. RepoAgent 連携マクロ関数

2. RepoAgent 連携マクロ関数

本関数は、帳票設計印刷ソフトウェア「RepoAgent」¹と連携するためのものです。

RepoAgent 連携マクロ関数は、「Excel2000 以降」で使用可能です。

2.1 機能概要

RepoAgent と連携するための機能概要を説明します。

本関数は、定義ファイル連携関数との組み合わせでのみ動作可能です。SQL 直接指定関数との組み合わせでは動作できません。

RepoAgent 情報簡易設定 API(DBMSETREPOENV)

本 API では、「RepoAgent 情報詳細設定」API を使用する前に、RepoAgent に必要な情報を設定します。

ただし、基本情報のみの設定とし、それ以外の設定値はレポート定義ファイルに従います。

RepoAgent 情報詳細設定 API(DBMSETREPODETAIL)

本 API では、「データ連携 / 帳票印刷」API を使用する前に、RepoAgent に必要な情報を設定します。

「RepoAgent 情報簡易設定」API とは異なり、RepoAgent に対して全てのパラメタを設定することが可能です。

データ連携 / 帳票印刷 API(DBMEXECUTEPRNT)

本 API では、DBEAM を経由して RDBMS より取得した表形式のデータを、上記の情報設定 API で指定した各種情報に従って、RepoAgent により帳票として印刷します。

1 「RepoAgent」は別途購入していただく必要がございます。詳細につきましては弊社ホームページをご覧ください。

URL : <http://www.tsl.co.jp>

2.2 RepoAgent 連携の実装方法

2.2 RepoAgent 連携の実装方法

RepoAgent 連携用のプログラムを作成するための設定及び VBA の記述方法について解説します。

2.2.1 マクロの有効化

RepoAgent 連携マクロ関数を使用するためには、Excel ヘアドインされている DBEAM マクロの参照設定を有効にする必要があります。

- 1.RepoAgent 連携マクロ関数を使用する VBA プロジェクトを開きます。
- 2.VBA エディタの「ツール」メニューの「参照設定」を実行します。
- 3.「参照可能なライブラリファイル」一覧の「DBMFUNC.XLS」にチェックマークを付けます。

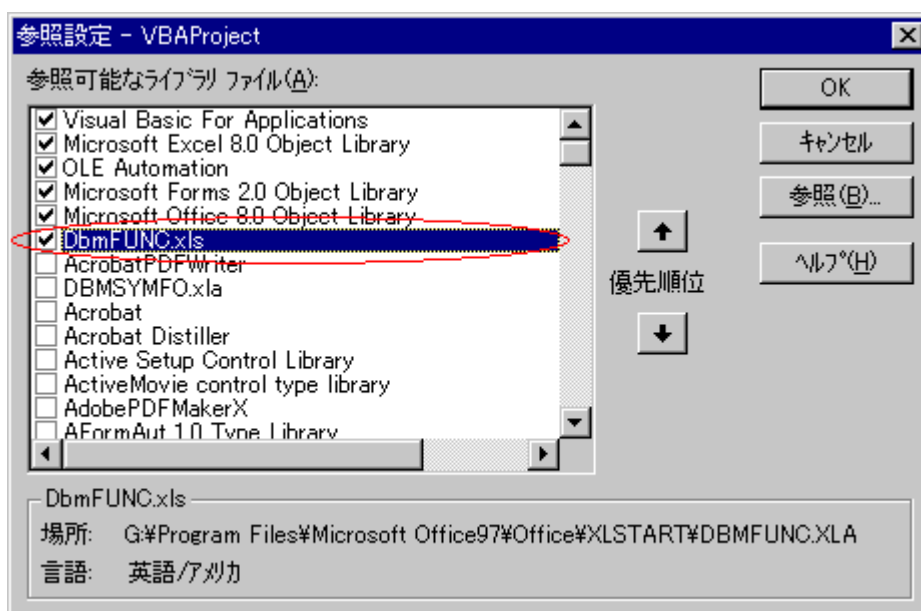


図 2.1 DBEAM マクロの参照設定

- 4.「OK」ボタンで設定を有効にします。

2.2 RepoAgent 連携の実装方法

2.2.2 マクロの記述方法

RepoAgent 連携マクロ関数は、従来の DBEAM 連携関数とは呼び出し方法が異なります。

(従来関数の呼び出し方法)

必ず、Application.Run マクロを使用して呼び出します。

```
RET_CALL = Application.Run("DBMFUNC.xla!DBMINIT")
```

(RepoAgent 連携関数の呼び出し方法)

Application.Run マクロは使用せずに呼び出します。

Application.Run で呼び出した場合は、正常に動作しません。

```
RET_CALL = DBMSETREPOENV( ..... )
```

以下のように Application.Run を使用すると呼び出しエラーが発生するか、または引数に指定した変数にエラー情報が格納されません。

```
RET_CALL = Application.Run("DBMFUNC.xla! DBMSETREPOENV ")
```

2.2.3 マクロサンプル

RepoAgent の製品版とお試し版では、レポート定義ファイルの互換がありません。そのため、DBEAM のサンプルフォルダも製品用とお試し用として以下のフォルダへインストールされます。

RepoAgent 製品版用 : Reposmp1 フォルダ

RepoAgent お試し版用 : Reposmp2 フォルダ

サンプルマクロファイル名 : reposamp.xls

サンプルの解説につきましては、「付録 1. サンプル解説」を参照してください。

2.2.4 セルの表示形式

桁数の多い数値データを扱う場合、Excel の表示形式を標準から数値へ変更する必要があります。標準形式のセルに桁数の多い数値データを展開しますと指数形式となり、RepoAgent 連携関数でエラーが発生します。

2.3 API リファレンス

2.3 API リファレンス

RepoAgent 連携の各 API について解説します。

2.3.1 DBMSETREPOENV (RepoAgent 情報簡易設定)

(1) 記述方法

DBMSETREPOENV(*rpName* , *csvName* , *reportName* , *printerName*)

RpdName(String) : レポート定義ファイル名を指定します。(未指定の場合はエラーとなります)

CsvName(String) : CSV データファイル名を指定します。(未指定の場合はエラーとなります)

ReportName(String) : レポート名を指定します。未指定の場合は、レポート定義ファイルの指示に従います。

PrinterName(String) : プリンタ名を指定します。
未指定の場合、デフォルトプリンタへの出力を行います。
"!ReportDef"指定の場合、レポート定義ファイルで指定されたプリンタに出力します。
"!SelectPrinter"指定の場合、[印刷]ダイアログを表示し、選択されたプリンタに出力します。

(2) 機能

RepoAgent での帳票出力に必要な情報を設定します。ただし、基本情報のみの設定とし、それ以外の設定値はレポート定義ファイルに従います。

本 API では情報の設定のみを行い、実際の帳票印刷は「2.3.3 データ連携 / 帳票印刷 API」により行います。

(3) 戻り値

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

-1 DBEAM が未起動(DBMINIT-API が実行されていません)

-500 RepoAgent 帳票出力コントロールがインストールされていません

-510 レポート定義ファイルが指定されていません

-511 CSV データファイルが指定されていません

-513 サポート対象外の Excel で実行されています(Excel2000 以降サポート)

2.3 API リファレンス

2.3.2 DBMSETREPODETAIL (RepoAgent 情報詳細設定)

(1) 記述方法

DBMSETREPODETAIL (*repoDetailInfo*)

repoDetailInfo(repoInfoTag) : 詳細情報設定用のユーザー定義型変数(構造体)を指定します。

構造体の解説については備考を参照してください。

(2) 機能

「データ連携 / 帳票印刷」API の実行前に、RepoAgent に必要な情報を設定します。

「2.3.1 RepoAgent 情報簡易設定 API」とは異なり、RepoAgent に対して全てのパラメタを設定することができます。

(3) 戻り値

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

-1 DBEAM が未起動(DBMINIT-API が実行されていません)

-500 RepoAgent 帳票出力コントロールがインストールされていません

-510 レポート定義ファイルが指定されていません

-511 CSV データファイルが指定されていません

-513 サポート対象外の Excel で実行されています(Excel2000 以降サポート)

2.3 API リファレンス

(4) 備考

詳細情報設定用のユーザ定義型変数（構造体）について解説します。

```
Public Type repoInfoTag
    usedFlag As Integer
    cdataCode As Integer
    rpdName As String
    DataName As String
    CustomDataName As String
    PrtName As String
    ReportName As String
    PstartPage As Integer
    PendPage As Integer
    Copies As Integer
    collateFlag As Integer
    Duplex As Integer
    UseAdjust As Integer
    AdjustOffsetX As Double
    AdjustOffsetY As Double
    errCode As Integer
    errorDetail As String
    logErrCode As Integer
    logErrorDetail As String
    mode As Integer
    imageFileInputPath As String
    dataFileInputPath As String
    customDataFileInputPath As String
    environmentFileName As String
    logFileName As String
    logSize As Integer
    hWndOwner As Long
    UseRegistry As Boolean
    UseMsgBox As Boolean
    UseOpenMenu As Boolean
    UseVersionMenu As Boolean
    TitleName As String
End Type
```

2.3 API リファレンス

usedFlag

ユーザーアプリケーションでは操作禁止です。(設定しないで下さい)

cdataCode

データの文字コード系(エンコーディング形式)を指定します。指定がない場合は、シフト JIS が指定されたものとして動作します。ここでの指定と、実際に入力するデータソースの指定が一致していない場合は動作は不定です。

- 0...シフト JIS
- 1...Unicode (UTF-8)
- 2...Unicode (UCS-2)

rpdName

レポート定義ファイル名を指定します。必ず指定する必要があります。

ファイルの絶対パスを含めた指定([例] C:¥Report¥月別売上げ)以外の場合は、以下の順序でファイルを検索します。但し、相対パスでの指定はできません。

- 環境変数 KRA_DEFINITION_FILE_PATH で指定されたディレクトリ
- 現在のディレクトリ

DataName

データソースファイル名を指定します。指定がない場合、または""(空文字)指定の場合は、レポート定義ファイルの指定に従います。

ファイルの絶対パスを含めた指定([例] C:¥Report¥月別売上げ)以外の場合は、以下の順序でファイルを検索します。但し、相対パスでの指定はできません。

- DataFileInputPath パラメタで指定されたディレクトリ
- 環境変数 KRA_INPUTDATA_FILE_PATH で指定されたディレクトリ
- レポート定義ファイルの定義
- 現在のディレクトリ

CustomDataName

カスタムデータソースファイル名を指定します。指定がない場合、または""(空文字)指定の場合は、レポート定義ファイルの指定に従います。ファイルの絶対パスを含めた指定([例] C:¥Report¥月別売上げ)以外の場合は、以下の順序でファイルを検索します。但し、相対パスでの指定はできません。

- CustomDataFileInputPath パラメタで指定されたディレクトリ
- 環境変数 KRA_CUSTOMDATA_FILE_PATH で指定されたディレクトリ
- レポート定義ファイルの定義
- 現在のディレクトリ

2.3 API リファレンス

PrtName

印刷を行うプリンタ名を指定します。指定により以下の動作を行います。

- ・プリンタ名指定...指定したプリンタに印刷を行う。
- ・"" (空文字) 指定または指定なし...デフォルトプリンタ(「通常使うプリンタ」で定義されているもの)に印刷を行う。
- ・"!ReportDef"指定...レポート定義ファイルで指定されたプリンタに印刷を行う。
- ・"!SelectPrinter"指定...[印刷]ダイアログを表示し、そこで選択したプリンタに印刷を行う。

指定したプリンタがシステム上で見つからなかった場合、印刷は失敗します。

ReportName

レポート名を指定します。レポート名は、プリントジョブ名として扱われます。

指定できる文字数は半角文字数換算で 1 ~ 64 文字までであり、"" (空文字) を指定した場合、または指定しない場合はレポート定義ファイルの指定に従います。

PstartPage

印刷を開始するページ番号を指定します。指定できる値は 1 ~ 65535 までです。0 を指定した場合、または指定しない場合は先頭ページから出力を開始します。

PendPage

印刷を終了するページ番号を指定します。指定できる値は 1 ~ 65535 までです。0 または最終ページを超える値を指定した場合、または指定しない場合は最終ページまで出力します。

Copies

コピー部数を指定します。指定できる値は 1 ~ 32767 までです。

但し、プリンタドライバによっては指定どおりの部数印刷を行えない場合があります、この場合当パラメタの指定は無視されます。

collateFlag

複数部印刷時の丁合有無を以下の値で指定します。

プリンタドライバによっては丁合指定が行えない場合があります、この場合当パラメタの指定は無視されます。

0...レポート定義ファイルの指定に従う。

1...丁合印刷を行う。

2...丁合印刷を行わない。

当パラメタを指定しない場合はレポート定義ファイルの指定に従います。

2.3 API リファレンス

Duplex

両面印刷するか否かを以下の値で指定します。プリンタドライバによっては両面印刷指定が行えない場合があり、この場合当パラメタの指定は無視されます。

- 0...レポート定義ファイルの指定に従う。
- 1...片面印刷
- 2...両面印刷 (横綴じ)
- 3...両面印刷 (縦綴じ)

当パラメタを指定しない場合はレポート定義ファイルの指定に従います。

UseAdjust

印刷開始位置調整の有無を指定します。

True...印刷開始位置調整を行う。AdjustOffsetX / AdjustOffsetY の指定が有効となります。

False...印刷開始位置調整を行わない。AdjustOffsetX / AdjustOffsetY の指定が無効となります。

当パラメタを指定しない場合は印刷位置の調整を行いません。

AdjustOffsetX

印刷開始位置の横方向微調整量を指定します。単位はインチであり、-1.00 ~ +1.00 の範囲で指定できます。マイナスは左方向、プラスは右方向の移動となります。初期値は0となっています。

当指定は、UseAdjust パラメタが True の場合のみ有効となります。

AdjustOffsetY

印刷開始位置の縦方向微調整量を指定します。単位はインチであり、-1.00 ~ +1.00 の範囲で指定できます。マイナスは上方向、プラスは下方向の移動となります。初期値は0となっています。

当指定は、UseAdjust パラメタが True の場合のみ有効となります。

errCode

現在未サポートです。設定しないでください。

errorDetail

現在未サポートです。設定しないでください。

2.3 API リファレンス

logErrCode

現在未サポートです。設定しないでください。

logErrorDetail

現在未サポートです。設定しないでください。

mode

必ず 0 を指定してください。

imageFileInputPath

イメージファイルを検索するディレクトリパス名を指定します。
複数のパスを指定する場合は、セミコロン (;) で区切って指定します。
イメージファイルは、以下の順序で検索されます。

- 当パラメタで指定されたディレクトリ
- 環境変数 KRA_IMAGEFILE_PATH で指定されたディレクトリ
- レポート定義ファイルの定義
- 現在のディレクトリ

dataFileInputPath

現在未サポートです。設定しないでください。

customDataFileInputPath

カスタムデータソースファイルを検索するディレクトリパス名を指定します。
複数のパスを指定する場合は、セミコロン (;) で区切って指定します。
カスタムデータソースファイルの検索順序については、
CustomDataTextName パラメタの説明を参照してください。

2.3 API リファレンス

environmentFileName

他のレポート定義ファイルから、プリント情報 / パス情報を移入する場合に指定します。当パラメタで指定したレポート定義ファイルのプリント情報 / パス情報を移入します。

他のパラメタと同時に指定された場合は、他のパラメタの指定を優先します。ファイルの絶対パスを含めた指定（[例] C:¥Report¥月別売上げ）以外の場合は、以下の順序でファイルを検索します。

但し、相対パスでの指定はできません。

環境変数 KRA_DEFINITION_FILE_PATH で指定されたディレクトリ
現在のディレクトリ

当パラメタの指定がない場合、または""（空文字）指定の場合は、環境移入を行いません。

当オプション指定でレポート定義ファイルから移入される情報は以下の通りです。

- ・イメージファイル検索パス名
- ・データソースファイル検索パス名
- ・カスタムデータソースファイル入力パス名

logFileName

ログファイル名を絶対パスで指定します。パスがない場合はカレントフォルダにログを出力します。

当指定がある場合は、環境変数によるログ採取指定は無効となります。

【注意】ログファイルはトラブル発生時の調査用に使用します。通常は使用しないで下さい。使用した場合、帳票出力性能が劣化します。

logSize

ログファイルの最大サイズをキロバイト単位の値で指定します。指定できる範囲は、1～2097152（2ギガバイト）までです。

ログファイル名の指定があり、サイズの指定がない場合、または範囲外の値を指定した場合、50 が指定されたものと見なします。

2.3 API リファレンス

hWndOwner

帳票ビューア画面のオーナーウィンドウのハンドルを指定します。
当パラメタを指定しない場合は、自動的に EXCEL がオーナーウィンドウとなります。

UseRegistry

レジストリ使用の有無を指定します。

True : レジストリを使用します。

画面の表示位置、サイズなどを保存 / 復元します。

False : レジストリを使用しない

画面の表示位置、サイズなどを保存 / 復元しません。

当パラメタを指定しない場合は、レジストリを使用します。

UseMsgBox

エラー時、メッセージボックスの使用の有無を指定します。

True : メッセージボックスを使用する。

エラー発生時、メッセージボックスを表示します。

False : メッセージボックスを使用しない

エラー発生時、直ちに帳票ビューアを終了します。

当パラメタを指定しない場合はメッセージボックスを使用しません。

UseOpenMenu

「開く」メニューの使用の有無を指定します。

True : 「開く」メニューを使用する。

帳票ビューアのメニューに「開く」が表示されます。

False : 「開く」メニューを使用しない

帳票ビューアのメニューに「開く」が表示されません。

当パラメタを指定しない場合は、「開く」メニューを使用しません。

UseVersionMenu

「バージョン情報」メニューの使用の有無を指定します。

True : 「バージョン情報」メニューを使用する。

帳票ビューアのメニューに「バージョン情報」が表示されます。

False : 「バージョン情報」メニューを使用しない

帳票ビューアのメニューに「バージョン情報」が表示されません。

当パラメタを指定しない場合は、「バージョン情報」メニューを使用します。

TitleName

帳票ビューアのウィンドウタイトル名を指定します。指定できる文字数は半角文字数換算で 1~64 文字までであり、"" (空文字) を指定した場合、または当パラメタを指定しない場合は、“RepoAgent 帳票ビューア” となります。

2.3 API リファレンス

2.3.3 DBMEXECUTEPT (データ連携 / 帳票印刷)

(1) 記述方法

DBMEXECUTEPT (*FLAG*, *FileName*, *UID*, *PWD*, *APLNAME*, *ErrorCode*, *ErrorDetail*)

FLAG(Integer) : 動作フラグを指定します。ただし、*DBMEXECUTE()*とは異なり、更新処理の指定はできません。(各動作フラグは加算して指定します)

0: 異常があると警告メッセージを表示します。

1: 異常があっても警告メッセージを表示しません。

2: 検索時の中断機能を無効にします。

4: 抽出条件に変数で使用されていたときに、実行時に変数が未設定である場合、その変数を使用している条件を無効にします。

64: 帳票の画面表示を行います。未指定の場合は、帳票の印刷を行います。

128: 検索件数が 0 件でも、帳票の印刷を行います。未指定の場合、検索件数が 0 件であれば帳票の印刷を行いません。

FileName(String) : DBEAM の定義ファイル名(*.DBM)を指定します。

UID(String) : サーバへの接続用利用者 ID を指定します。

PWD(String) : サーバへの接続用利用者パスワードを指定します。

APLNAME(String) : アプリケーション名を指定します。(任意の文字列)

ErrorCode(Integer) : RepoAgent からのエラーコードが返却されます。正常終了の場合は 0 が設定されます。

ErrorDetail(String) : RepoAgent からのエラー詳細文字列が返却されます。正常終了の場合は空文字("")が設定されます。

(2) 機能

DBEAM を経由して RDBMS より取得した表形式のデータを、「2.3.1 RepoAgent 情報簡易設定 API」及び「2.3.2 RepoAgent 情報詳細設定 API」で指定した各種情報に従って、RepoAgent により帳票として印刷を行います。

なお、本 API では、RDBMS からのデータ抽出のみを動作対象とし、更新系の処理が指定された場合には、エラーとします。

(3) 戻り値

0 <= : 正常終了 (検索件数)

0 > : 異常終了 (DBEAM でデータ取得エラーまたは RepoAgent でエラー)

異常の場合は、動作モード引数に「メッセージの表示 値は 0」を指定しエラーメッセージの確認を行ってください。

RepoAgent のエラー情報につきましては、RepoAgent のヘルプを参照してください。

付録 1 RepoAgent 連携サンプル解説

付録 1.RepoAgent 連携サンプル解説

(1) サンプル book の構成

DBEAM-RepoAgent 連携サンプル book は下記のシートにより構成されています。

(a) サンプル実行シート (シート名：納品状況確認)

サンプルプログラムの起動画面となります。画面右上の 2 つのボタン「納品書画面表示」と「納品書印刷」を押すことで、各々サンプル VBA プログラムが起動されます。また、対象データも表示されます。

(4) VBA プログラムの解説を参照。

(b) 環境設定シート (シート名：環境)

サンプルプログラムで使用する、各種設定ファイルや、データベースへのログイン ID、パスワードといった情報が下記のセルに格納されています。

R2C1 セル
DBEAM データベース検索定義ファイル名

R10C1 セル
RepoAgent レポート定義ファイル名

R11C1 セル
RepoAgent データソースファイル名 (CSV ファイル)

R2C2 セル
RDB サーバへのログイン ID

R2C3 セル
RDB サーバへのログインパスワード

R11C4 セル
DBEAM-API で使用するメッセージモード

(c) データシート(シート名：作業用シート)

DBEAM がデータベースから検索した表形式のデータを格納するシートです。このデータが自動的に CSV ファイルに変換され、RepoAgent 経由にて帳票として印刷されます。

付録 1 RepoAgent 連携サンプル解説

(2) サンプル用データベーステーブルの構成

サンプルで使用する DBEAM 検索定義ファイルでは、下記の名称形式にてテーブルを作成しています。

列名	データ型	出力先セル
発注番号	文字型	A
顧客名	文字型	B
納品先	文字型	C
出荷年月日	文字型	D
契約型名	可変長文字型	E
品名	文字型	F
数量	数値型	G
単価	数値型	H

下記にデータの一例を示します。

発注番号	顧客名	納品先	出荷年月日
100002234501	東京システム技研	晴海倉庫 1-2	20020618
100002234501	東京システム技研	晴海倉庫 1-2	20020618
103315543100	ハイランドソフト	長塚支店	20020604

(続く)

(続き)

契約型名	品名	数量	単価
MO600W	MO ディスクホワイト	5	200
PPRA410KR	A4 再生紙 1000 枚入り	9	1400
CDR650SIL	CDR650M シルバー	40	40

(3) レポート定義ファイルの構成

レポート定義ファイルは、RepoAgent のサンプル「納品伝票.RPD」をそのまま使用しています。

この定義ファイルの内容は、RepoAgent 帳票エディタを起動して確認して下さい。

付録 1 RepoAgent 連携サンプル解説

(4) VBA プログラムの解説

このサンプルでは、2 つのボタンから各々「帳票の画面出力」、「帳票の印刷」を起動します。

ここでは、実際のプログラムコードの解説を行います。

(DBEAM の API に関しては、DBEAM のユーザズガイド末尾にある API リファレンス及び、サンプルマクロ解説を参照してください。)

(a) 帳票作成情報の簡易設定

```
*****  
' RepoAgent 用の設定を行います  
*****  
RET_CALL=DBMSETREPOENV(Worksheets("環境").Range("A10"),  
Worksheets("環境").Range("A11"), Worksheets("環境").Range("A12"),  
Worksheets("環境").Range("A13"))
```

RepoAgent の実行環境（レポート定義ファイル、データソースファイル）を簡易設定 API 経由で設定します。

ここでは、R10C1(A10)に格納されている「レポート定義ファイル」、R11C1(A11)に格納されている「データソースファイル」、R12C1 に格納されている「レポート名」（省略の場合は名前無し、R13C1 に格納(省略可能)されている、「プリンタ名」（省略の場合はデフォルトプリンタ）が指定可能です。

指定できない情報に関しては、RepoAgent のデフォルト値が適用されます。

(b) 帳票作成情報の詳細設定

```
*****  
' RepoAgent 用の設定を行います  
*****  
  
Dim repSetInfo As repoInfoTag  
  
repSetInfo.cdDataCode = 0  
repSetInfo.rpdName = Worksheets("環境").Range("A10")  
repSetInfo.DataName = Worksheets("環境").Range("A11")  
repSetInfo.CustomDataName = ""  
repSetInfo.PrtName = ""  
repSetInfo.ReportName = "test"  
repSetInfo.Copies = 1  
repSetInfo.logSize = 2048  
  
RET_CALL = DBMSETREPODETAIL(repSetInfo)
```

RepoAgent の実行環境（レポート定義ファイル、データソースファイル）を詳細設定 API 経由で設定します。簡易設定 API による情報設定とは異なり、プリンタ種別や、印刷枚数、文字コード系等の詳細情報が設定可能です。設定可能な詳細情報に関しては、API リファレンスを参照してください。

付録 1 RepoAgent 連携サンプル解説

(c) 画面表示帳票の作成

```
*****
' 指定された定義ファイル及び、設定された条件変数の値に従って検索を行います。
' 既に DBMASSIGN 関数により定義ファイルを指定済みの場合は、
' 第 2 引数でファイル名は必要ありません。
*****
DBM_MSG = DBM_MSG + 64
RET_CALL = DBMEXECUTEPT(DBM_MSG, "",
    Worksheets("環境").Range("B2"),
    Worksheets("環境").Range("C2"),
    "SAMPLE", repo_errno, repo_errDetail)
```

ここでは作成した帳票を画面表示するため、64 を加算指定しています。
なお、画面表示モード時の DBMEXECUTEPT -API は、表示されている帳票
ウィンドウが消去されるまで復帰しませんので注意が必要です。repo_errno と
repo_errDetail には、エラー発生時の詳細情報が返却されます。

(d) プリント印刷帳票の作成

```
*****
' 指定された定義ファイル及び、設定された条件変数の値に従って検索を行います。
' 既に DBMASSIGN 関数により定義ファイルを指定済みの場合は、
' 第 2 引数でファイル名は必要ありません。
*****
DBM_MSG = DBM_MSG
RET_CALL = DBMEXECUTEPT(DBM_MSG, "",
    Worksheets("環境").Range("B2"),
    Worksheets("環境").Range("C2"),
    "SAMPLE", repo_errno, repo_errDetail)
```

ここでは作成した帳票をプリンタ印刷します。
なお、プリンタ印刷モード時の DBMEXECUTEPT -API は、印刷が完了（ブ
リントキューを使用している場合は、キューへの登録が完了し次第）すると復帰
します。
repo_errno と repo_errDetail には、エラー発生時の詳細情報が返却されます。